

パーキンソニズムをめぐるやりとり

医師> 元気にはしていましたか？この3ヶ月は転びませんでしたか？

患者> 朝、足がもつれるようになりました。頭をぶつけないように、膝をついてよくすりむきます。

医師> 一歩目がなかなか出てこない？(すくみ足の確認)

患者> そうですね。

医師> まだ一人暮らし、頑張れそう？

患者> 考えたことないですけど。まだ大丈夫だろうと思います。

医師> 頭をぶつけないことも大事だけど、膝をついて骨折しないか心配ですね。骨粗鬆症の治療は受けていないんでしょ？

患者> 受けてないです。

医師> 良い薬がたくさん出ているから、治療を受けて欲しい気持ちもヤマヤマだけど。病院に通うのも大変ですものね。

患者> はい。

医師> せめて転ばないように、動きを良くする薬を追加しましょうか？(すくみ足の治療の提案)

患者> 今だって大丈夫なわけではないけど、できれば薬は増やしたくない。幻覚が起きても困るし。(薬剤性幻視への不安)

医師> その気持ちもわかるけど、一番避けるべきは骨折なんですよ。コロナ禍の入院は、見舞いもできず寂しいですよ。

患者> 動き始めというより方向転換がね。落ち着いてやれば良いんですけど。

医師> それもいづらか良くなるとは思いますが。若い頃のようにテキパキ動けるようにはならないけど。(すくみ足の治療をもう一押し)

患者> もう少し様子を見てみます。

医師> わかりました。また相談しましょう。